

地震などがない地域の外国人は、防災訓練の経験がなく、防災や減災に関する知識がありません。困っていると感じたときは、「やさしい日本語」で話しかけるなど、お互いに助け合いましょう。

- **ともに暮らす仲間として**
- **相手を理解しましょう**
外国人に日本での生活のルールを学んでもらうと同時に、私たちも相手の国の文化や習慣などを知ることが大切です。
- **声をかけてみましょう**
日本語であいさつをしたり、相手の国の言葉を覚えたり、ちょっとした会話がコミュニケーションの第一歩になります。
- **一緒に活動しましょう**
地域の活動やイベントに外国人を誘ったり、国際交流イベントに参加してみてください。国際理解が深まるきっかけになります。



みんなで広げよう
多文化共生の輪
多文化共生のまちづくりに向けて

問(市)市民協働課 多文化共生係 ☎89-2315

街中や職場など日常生活の様々な場面で、外国人と出会うことは珍しいことではなくなりました。外国人が働く企業も多くなり、外国にルーツを持つ子どもが学校や就学前教育保育施設などでも増えています。こうした社会の変化の中で、日本人も外国人も、安心して暮らすことができる社会が求められています。お互いの国籍や言語、文化の違いを認め合い、誰もが地域の一員として安心して暮らすことのできる魅力あるまちを作るため、「多文化共生」について考えてみましょう。

多文化共生に向けた市の取り組み

「日本語教室」の開催

教育センターと自由が丘公民館、国際交流プラザでボランティアが中心となり開催しています。日本語を学習しながら日本の文化についても知ることができ、交流・情報交換の場にもなっています。

「やさしい日本語」による窓口対応

市職員を対象に「やさしい日本語」研修を実施し、外国人住民へ丁寧かつ効果的な窓口対応を心がけています。「やさしい日本語」が通じないときは、コミュニケーションをとるために音声翻訳機を使用します。

多言語による行政情報の提供

外国人住民向けの「生活ガイドブック」の発行に加え、ごみの分別方法や119番のかけ方などの行政情報を「やさしい日本語」や漢字にルビをふるなど、多言語に翻訳し提供しています。

「外国人住民相談窓口」の設置

外国人が抱える生活課題の解決に必要な情報提供や、関係機関、専門相談窓口の紹介などを行っています。また、「多文化交流サロン」を開き、日本人と外国人の交流の輪を広げています。



消防本部による救急救命教室

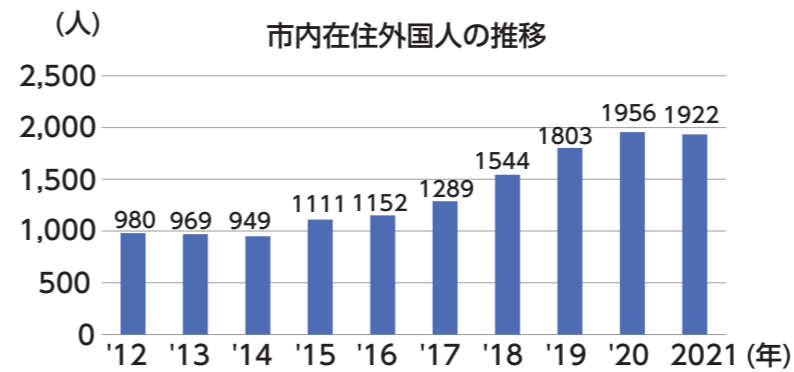


三木警察による交通安全教室

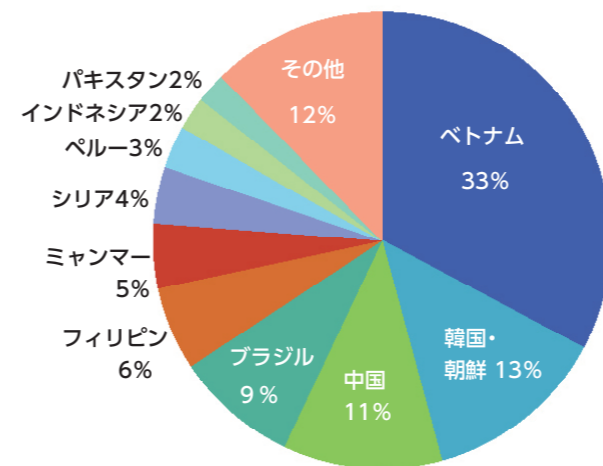


日本語教室の様子

日本語教室



市内在住外国人人口 国別割合(令和3年12月31日現在)



三木市の国際化
市内の企業で働く外国人の増加に伴い、外国人住民が増加しています。令和3年12月末現在、三木市には1,922人の外国人住民が生活し、市内人口に占める割合は2・54%です。これは10年前と比べて約2倍になります。
国籍別ではベトナムが最も多く、韓国、中国、ブラジルなど46カ国の外国人住民が生活しています。

多文化共生とは
「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていくこと」を言います。
皆さんは、周りに様々な国や地域にルーツを持つ人たちが住んでいる中、言葉や習慣などの違いに戸惑いや不安を感じたり「私たちと違うから」という理由で、壁を作ってしまうことはありませんか？
同じ地域に住む者同士が、お互いを尊重し、顔の見える関係を築くことは、住みよい地域を作るために大切なことです。

やさしい日本語で話してください

「やさしい日本語」とは、難しい言葉を言い換えるなどして、伝える相手に配慮した日本語のことです。
簡単な日本語であれば理解できる外国人は多いので、コミュニケーション手段として効果的です。「です」「ます」を使い簡単に短い文をゆっくりと話してみてください。ただし、方言は通じにくいです。

「やさしい日本語」の例
「危険」→「危ないです」
「避難する」→「逃げます」
1995年の阪神・淡路大震災では、日本語が十分に理解できず、避難が遅れた外国人が多くなりました。そこで、外国人に必要な情報を迅速に伝えるために考案された言語が「やさしい日本語」です。

●外国人住民相談窓口(市役所4階 国際交流プラザ)市民協働課 多文化共生係(市)国際交流協会
☎89-2315 ☎89-2318